

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 6 年 3 月 14 日

事業所名 セカンドハウス わくわく

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%				
	2 職員の配置数は適切である	100%				送迎や現場等で、人員が一時的に足りない時は、他事業所に手伝ってもらっています。BCPの観点からも他事業所との連携、協力体制が必要。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%			車椅子トイレの設置。 階段に手すりの設置。	出来る範囲で。と現場職員からの評価。事業所内で、利用児さんの特性に合わせた、場の設定(構造化)を行っている。アセスメントを行い、活動の中で、再アセスメントと特性に合わせた再構造化を行っている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%		月に一度以上支援会議とそれとは別に職員会議を必ず行っており、事業所として出来る限りの職員、支援員との業務確認を行っている。	業務の振り返りの時間設定あり。との職員からの意見。 毎朝の打ち合わせを行い、支援後の振り返りを日々、行なえる範囲で行っている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向を把握し、業務改善につなげている	100%				保護者様等の意向を確認し改善すべき点は改善しながら、出来る事、出来ない事を合意形成し、事業所として出来る限りの取り組みを行っていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%				法人の会報を発行し、HPに公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	80%	20%			第三者による外部評価は行っていない。
適切な 支援の 提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%				年間計画にて予め予定のわかる研修等には計画を予定し、随時、職員からの希望に応じ機械を設け、又職種において、法人からの参加を促している。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%				相談しあいながら立案進めている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			個室やおもちゃの入れ替えを行っている と職員からの意見。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%			細やかに出来ていない部分があると職員からの意見。 負担無く無理の無い出来る範囲で支援を遂行していく事に努めます。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%				必ず、支援が始まる前に実施要項、及び、利用日の全利用児の活動予定を確認している。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	40%	60%			①すぐに出来ない時もあるが、振り返りや情報共有をしている。 ②毎日行っていない。 ③確認や困り事もその都度聞いて頂けている。 ④出来るだけ機会を作ろうとしている。
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	80%	20%			①記録がとれる時はとっているが徹底は出来ていない。 ②課題の記録を取る事に努めているが徹底は出来ていない。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%					
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%					

20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			役割に応じて職務を遂行している。児童発達支援管理責任者、及び、その状況に最もふさわしい者が参画出来る様に努めている。
----	---	------	--	--	--

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	80%	20%			服薬などに関しては、保護者様を通して情報を頂いている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		40%	60%		保護者会はなし。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	80%	20%			事業所単位ではなく、法人全体で、最も適した者が参画している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%				日々、状況や課題が目まぐるしく変わる中で、出来る範囲で保護者と特性理解の中での共有理解を図っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	80%	20%			①家族支援、相談等は随時必要な家庭に行ってはいるが、ペアトレは実施していない。②学習会がこれにあたるのかな?との職員からの意見。 ペアレントトレーニングを現在は行っていない。その都度、保護者学習会に参加して頂いた中で、ペアトレの狙い、考え方を伝え、保護者様だけの対応力向上ではなく、事業所としても何が出来るのかを一緒に考え、一人一人に合った対応方法を一緒に模索し、支援に努めている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				契約時に必ず伝えている。 報酬改定や加算の変更などの料金変更は、丁寧にいう事に努めている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%				都度、丁寧にいう事に努めている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	40%	40%	20%		当事業における、保護者会はありません。 保護者学習会後に保護者同士の連携の場として情報交換会を設けている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%				月に一度、事業所会報を発行し、郵送か手渡しで渡している。
	35	個人情報に十分注意している	100%				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				合理的配慮のもと、随時、意思の疎通を補助する支援グッズや、本人に伝わる情報伝達に努めている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	80%	20%			
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%				会報にのせて周知している。(感染症対策や訓練など)
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%				会報にのせて周知している。 (感染症対策や訓練など)
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%				法人全体で委員会を設置し年間計画にて研修や報告書を、全職員と読み合わせ等を行い、フィードバックを行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%				保護者様より情報を頂いている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%				行っている。